

政策06 市民協働によるまちづくり

評価項目	評価
施策03 国内・国際交流の推進	概ね適切

【参照：資料 - 47】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【施策の課題】</p> <p>1) 地域の国際化 国際感覚を持った市民を育成し、外国の生活や文化を理解することで、日本人と外国人の双方が安心して快適な暮らしができる地域社会を築く。</p> <p>2) 人材育成 外国人とコミュニケーションを図る力やグローバルな感覚を身に付け、日本の発展や国際社会に貢献できるような人材の育成を図る。</p> <p>3) 異文化理解の推進 国内・国外の異なる歴史や文化などを知り、そこで暮らす人たちと接する機会を設けることで、視野を広げるとともに、地域の現状や課題について見識を深める。</p>	<p>課題の2) 「グローバルな感覚」は1)の「国際感覚」と同じ意味なら統一すべきである。</p>	<p>同じ意味なので、統一する。</p>
<p>【施策の環境変化】</p> <p>平成23年度からの小学校の英語必修化を前に、江別市小学校英語指導連絡協議会などを通じ、英語教育の取り組みなどについて相互の情報交換や検討が行われている。</p>	<p>「江別市小学校英語指導連絡協議会」にどのような構成員がいるのか記載した方が、取り組みの様子がわかるのではないかと。</p>	<p>表現について検討する。</p>
<p>【施策の成果指標】</p> <p>外国のことを理解し、お互いの歴史や風土を尊重して交流できる市民割合</p>	<p>姉妹都市の相互派遣数の累計を成果指標で表すことができれば、これまでに市民の中で交流する機会を得た人がどのくらいいるかわかり、市民割合の指標よりもインパクトがあるように思う。</p>	<p>開始当初から人数は把握しており、指標として加えることは可能である。</p>

担当部署の評価内容	委員の意見
<p>【意図】 外国の文化や習慣を理解するとともに、コミュニケーションを図ることができるようにして、外国人とともに快適な生活を送ることができる。</p>	<p>ここでは「コミュニケーションを図ることができるようにして」としているが、基本事業01「人材、団体の育成」の成果指標「外国人とコミュニケーション出来る人の割合」が初期値10.2%と低すぎるので、「できるようにする」のは困難である。「できることによって」という表現の方がよいのではないか。</p>

政策06 市民協働によるまちづくり

評価項目	評価
施策03 国内・国際交流の推進 基本事業01 人材・団体の育成	適切

【参照：資料 - 48】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
	指摘等無し	

担当部署の評価内容	委員の意見
【事業の成果指標】 ①外国人とコミュニケーションが出来る人の割合 ②国際交流団体の登録者数	例えば通訳などのボランティア登録件数を指標にできるようにすればよい。ボランティアとして登録できるということが市民に見えると意識が変わってくると思う。その人達が中心になって次の人材育成を担ってくれることが、市民協働という観点からすると、理想的だと思う。

政策06 市民協働によるまちづくり

評価項目	評価
施策03 国内・国際交流の推進 基本事業02 在住外国人への情報提供の充実	概ね適切

【参照：資料 - 48】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
【事業の成果指標】 外国語による情報媒体提供件数	情報媒体提供件数が何をカウントしているのかわかりにくいので、具体例を括弧書きで補記すべきである。	英語・中国語のパンフレットの他に、ホームページの情報更新件数が含まれるので、上手く括弧書きで補記できないか検討する。

担当部署の評価内容	委員の意見
【事業の成果指標】 外国人相談によって問題が解決した割合	問題が解決した割合が100%とあっても、どのくらいの相談件数があったのかわからないと実態がつかめない。件数自体は達成すべき目標にはならないので成果指標に加えることは適当ではないが、何らかの形で報告書に表示できれば理解の参考になる。

政策06 市民協働によるまちづくり

評価項目	評価
施策03 国内・国際交流の推進 基本事業03 異文化交流の推進	概ね適切

【参照：資料 - 49】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
【事業の成果指標】 ①友好都市との交流者数 ②世界市民の集いなど交流イベントの参加者数 ③社会人向け外国語講座の参加者数	この報告書では派遣人数が出ていない。成果指標として追加するのか、達成状況の中に文章化して書くのか、いずれにしても市民に成果を見せるには派遣人数や受入人数を累計して表すべきである。	事務事業評価表で派遣数・受入数を指標として用いているが、施策の報告書にも表示した方がよりわかりやすいというご指摘なので、指標とするのか、毎年の達成状況の中で表現するのか、いろいろな方法を検討する。

担当部署の評価内容	委員の意見
【事業の目的】 様々な国や人、地域と触れ合い、相互の文化や歴史を理解する人材を育成します。	基本事業の目的は「人材を育成します」となっているが、成果指標は「関わる」とか「参加する」という指標で、達成状況の方も「触れる機会を持てるように努めている」という内容である。異文化を理解する機会を作ることも基本事業の目的になるのであれば、目的の表現を見直す必要があるかもしれない。